



井上マリア（いのうえ まりあ）
慶應義塾大学法学部政治学科3年
軍備管理軍縮課 インターン

★どんなことをしたか？

安倍総理や岸田外務大臣の国連ハイレベル会合でのスピーチの英訳、在京大使が出席される会議の資料作成、マンハッタン計画施設の国立公園化に関する報道調査、「核兵器使用の人的影響に関する共同ステートメント」の問題に関する資料作成、対人地雷に関するレポート作成などです。

★インターンを応募した理由

私が高中を広島で過ごし、漠然と「核兵器を廃絶したい」と思うようになっていました。しかし、上京してみると、広島の人々の当たり前は必ずしも通用しないことに気づきました。さらに現実を目を向けると、日本は非核を訴えつつ、アメリカによる核の傘の元で過ごすジレンマに苦しんでいます。核兵器を廃絶には、広島市民を主観とした「思い」だけではなく、「現実」客観視しつつ各国と協議しないといけません。そのような政策の第一線で活躍している外務省の軍備管理軍縮課で、国が「核のない世界」に向け、どのようなことを行っているのか学びたかったので応募しました。

★楽しかったこと

インターン期間中に、岸田大臣の記者会見を間近で見学できたのはとても貴重な体験でした。お隣の通常兵器室の仕事を頼まれることもあり、これまであまり知らなかった対人地雷問題に関して調査する機会もでき、また新たな視点でものを見るきっかけとなりました。省員の皆さんに与えられた仕事や課題はどれもやりがいのあるもので、時間が経つのを忘れていました。



中作愛（なかさく あい）

Northeastern University 経営学部 4年

大臣官房国際報道官室 インターン

★インターンを応募した理由

平成23年度ボストンキャリアフォーラムの場で、外交の最前線で働く日本の外交官から業務上得た知見や経験など生のお話を聞き、外交を展開し、日本の国益を追求する外務本省や在外公館での業務に関心を持ちました。その後、在ボストン日本国総領事館で半年間のインターンシップを経験し、本省と在外の業務の違いや省内の雰囲気インターンの目線から見てみたいとの思いが強くなり、外務省インターンシップに応募しました。

★どんなことをしたか？

英語に触れる機会が多く、海外の大学に通う私にとっては生き生きとした職場環境でした。大臣官房国際報道官室は、外交に関する膨大な資料や報道をとりまとめたり、積極的に情報発信や取材協力を行い多くの外国報道機関からの問い合わせに対応するなど、民間では行われていない政府機関特有の業務を担っています。また、外国記者を訪日招へいし、対日好感度の向上に努めています。大臣官房国際報道官室で発信された情報が、各国メディアで取り上げられ報道される様子に、職員の日々の努力を身近に感じることができました。

★今後の目標

内外の多様な情報が飛び交う部署でのインターンを終え、物事を様々な観点から見つめる分析力と洞察力を養うことができました。一步、日本の外に出ると、194カ国の国々が意見を主張する国際社会において、堂々と日本の方針を主張し、国際社会の理解を得ようと奮闘する外務省職員の使命に大変憧れを感じました。将来は、外務省職員のような国を代表し責任のある仕事に就きたいと考えています。



遠藤瀬梨花（えんどう せりか）
早稲田大学大学院法務研究科3年
地球規模課題総括課 専門機関室インターン

★インターンを応募した理由

外務省で働くことを希望しており、実際の現場はどのように動いているか見てみたいと考え、インターンに応募しました。

★どんなことをしているの？

インターン中に発行されたILOの海上労働条約について、ILOの議事録などをもとに調査をしました。また、ILO主要8条約のうち、日本が未批准の2つの条約につき批准が可能か検討しました。

★インターン開始前とインターン終了後の外務省/省員の印象

外務省というと、忙しくピリピリした雰囲気というイメージを持っていたのですが、インターンに参加し、省員の皆さんが、明るく和やかな雰囲気でお仕事をなさっていることに驚きました。また、自らが交渉の場に赴くだけでなく、交渉に携わる人へのサポートなど事務的な面もすべてカバーした業務であること、他省庁との連絡が非常に密であることは、実際に業務に携わらなければ知ることができないので、体感できてよかったと思っております。

麓えり (ふもと えり)
慶應義塾大学法学部政治学科3年
南西アジア課インターン

★どんなことをしたか？

主に資料の作成や更新をしました。外務省や国連、IMF、各国政府のホームページを見ても求めているデータがなかなか出てこないこともありましたが、その過程で様々なデータや数値に触れることとなり、勉強になりました。最後にはインド洋地域の国々が設立した機関について調べ、日本にとっての意義は何なのかということを考えて、課内の方々に発表し、フィードバックを頂く機会も設けていただきました。

★インターンを応募した理由

インド・パキスタンを扱う大学の講義で、今まで親しんできた日本や西洋の物の考え方と違う視点を持つ南アジアに興味を持ちました。また、日本を代表して他国との関係を築いていく仕事の一つである外務省での業務・雰囲気はどのようなものなのかを、具体的に学ぶ良い機会になると思い応募しました。

★印象に残っていること

インターン最終日の発表の際、プレゼンテーションの仕方や内容に至るまで具体的なアドバイスを頂けたことが一番印象に残っています。外交の最前線で活躍されている方々からのご指摘は、大学の授業では触れることのなかった実務的な視点からのものばかりで、経験に裏付けられたお言葉は深く心に残りました。これはインターンをやらせていただいたからこそ、得られた貴重な経験でした。



小山璃奈（こやま りな）
青山学院大学国際経済学部2年
IT広報室インターン

★どんなことをしたか？

海外の外務省・国務省や国内各省庁のHP.facebook ページ.twitterアカウントがどのようにIT広報で行っているかを調査し、最終日にプレゼンテーションしました。また、外務省やわらかツイートの運営を行い、IT広報を効果的に行うためにはどのようにすればいいかを調査しました。

★インターンを応募した理由

私がインターンする前の外務省のイメージは"お堅いお役所""みんな片手にワインを持ちながら外交官とお話をしている"というような感じでした。

将来どのような仕事に就きたいのかを悩んでいた中、外務省がインターン生を募集していることを知りました。日本を代表して様々な国と外交を行っている外務省でインターンをさせていただくことで、雲の上のような存在であった外務省を肌で感じ、また官民との違いを知ることができたらいいな、と思い応募しました。

★外務省/省員の印象

実際にインターンをさせてもらって1番に思ったことは、とてもフレンドリー方が多く、女性の割合が高いな、ということでした。外交の最前線で働いてらっしゃることを感じさせない余裕があり、とても衝撃を受けました。どんな質問をしても的確に答えてくださり、私自身にとって、とても刺激的な二週間となりました。また、近年急速に発達するITを利用した広報の部署で働かせていただいたことで、これからのIT広報の重要性を強く感じました。

福井美怜（ふくい みさと）

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 修士1年
経済局 国際貿易課インターン

★どんなことをしたか？

ドーハ・ラウンドが行き詰まりを見せる中、WTO体制はどのような方向性を目指すべきなのか、海外文献を中心にWTOに求められる改善、改革案や新構想に関するのまとめを行いました。またWTO閣僚会議の歴史を振り返ることで、なぜ交渉停滞という現状を招いたのか、より理解を深めることもできました。インターン中に与えられる課題は、自身のやりたいことに応じて柔軟に対応して頂けることも魅力の一つです。

★インターンの開始前とインターン終了後の外務省／省員の印象

外交官、その響きからは華やかな仕事を想像しますが、実際には地道な業務も伴います。しかし、それは一国としての発信を行うにあたり必要なプロセスであり、多くの省員の方々の関与が背景にはあります。どの業務に対しても真摯に向き合っている姿勢が大変印象的であり、ご自身の担当業務においてのみならず社会人としてのプロフェッショナルさを感じました。

★楽しかったこと

日々行きかう言葉が、WTO閣僚会議や、発言要領等、国としての業務を担う責任を感じることでできる刺激的な環境でした。大臣会見を見学させて頂いたり、多くの省員の方々とお話をさせて頂いたり、実習期間中の毎日が楽しく充実していました。省内ではいずれの課室も短縮した呼称があり、私がインターンをさせて頂いた「経済局国際貿易課」は「経国貿」と呼ばれていました。



齋藤詩織（さいとう しおり）
一橋大学法学部2年
アジア大洋州局大洋州課インターン

★どんなことをしたか？

主に4週間かけての政務レベルの執務資料作成を行いました。私は、オーストラリアの安全保障政策について調査しました。毎日の膨大な英文資料の読解や細かいデータの分析は大変でしたが、その分、自分の自信にもつながり、非常に実りある経験となりました。そのほか、オーストラリア大使館やミクロネシア大使館への訪問、PIC(太平洋島嶼国センター)へも赴いて、お話を伺うといったこともさせていただきました。

★インターンに応募した理由

小学生の頃から、将来は法律もしくは国際社会に関わる仕事に就きたいと考えており、この機会に、外務省という日本外交の最前線を担う職場を見てみたいと思い、インターンに応募しました。

★楽しかったこと

同じ課の職員の方と一緒に食事をさせていただく機会が多く、様々なお話をうかがえました。また、休日を利用してオーストラリア大使館の方と一緒に出かける機会もあり、とても貴重な経験をする事ができたことが心に残っています。

大崎佑佳（おおさき ゆか）
慶應義塾大学法学部法律学科4年
広報文化外交戦略課インターン

★どんなことをしたか？

課が今後使用する資料作成・日本の広報文化政策の提言についての資料作成の手伝い・facebookを通して、日ASEAN40周年記念イベントや東北復興支援に向けた取り組みの広報などを行いました。

★インターンを応募した理由

私は日本の文化が大好きで、日本の魅力を世界にPRし、インバウンドの増加につなげ、より多くの外国人に日本の良さを実際に肌で感じてもらいたい、という夢があります。そこで、将来の進路を決めるにあたり、国を代表して広報文化外交を行う現場を体験したいと思い、外務省の広報文化外交戦略課を志望しました。

★インターン開始前とインターン終了後の外務省/省員の印象

開始前は、厳格で規則にあふれた職場だというイメージを勝手に持っていましたが、実際は普段は和やかな雰囲気の中、外交における国の代表機関として緊張感と誇りを持って皆さんが仕事をされている様子を日々目の当たりにし、感動しました。

省員の方は、様々なバックグラウンドをお持ちの方が多く、そういった方々がなぜ外務省で、何がしたいのかという話を聞くのは非常に刺激的でした。

北出雄大（きたで ゆうた）
京都外国語大学国際教養学科 3年
軍備管理軍縮課インターン

★インターンを応募した理由

大学生活でよく大使や国連、外務省で働いている人について話す機会があったことや、学生自身が大使役になって会議を行う模擬国連大会に何度か参加し、「外交」というものを間近で感じたかったからです。

★外務省の印象

意外にもデスクワークが多いことに気づいたことと、仕事の雰囲気も堅苦しくなく、職員の方々は和気藹々に仕事に臨んでいることです。（その中にも仕事に対する情熱や真剣な雰囲気はもちろんあります）

★将来の目標

平和構築に興味があるので、国際機関や開発系の企業で働きたいです。
なぜなら(利己的な動機かもしれないが)脆弱な国家を無視しておくことは国際秩序の脅威にもなりかねないと感じるからです。
機会があったら教員にもなりたいと思います。



岡田悠季（おかだゆうき）
京都大学法学部 3年
中東第一課 インターン

★インターンを応募した理由

フランスに留学していた際に、EUの対中東政策を勉強し、日本が対中東にどのような外交を行っているのかを知りたいと考えたため。

★インターン開始前とインターン終了後の外務省/省員の印象

初めてのインターンシップだったこともあり、開始前はお堅いイメージも強く、足手まといになり叱責されてしまうのではないかと緊張していました。実際にインターンを始めると、課内の皆さんは、とてもフランク且つ丁寧にアドバイスを下さり、様々な業務に携わることができました。皆さん、多忙な毎日で業務に忙殺される中、やりがいを持って楽しく業務をなさっていると感じました。

★インターン中に知った用語

省員の皆さまが日常的に使われている各課の略称。(例:総合外交政策局国連企画調整課→総国企など)

はじめはどの課のことを指しているのかわからず混乱しました。



小林里菜（こばやし りな）
専修大学文学部2年
国際協力局政策課インターン

★どんなことをしたか？

課内の広報班にて、10/5～10/6開催のグローバルフェスタ内写真展の応募作品管理・資料作成、会議の議事録作成、ポスター作製、メルマガ作成、メルマガの改善案提案などを行った。

★応募した理由

春に1ヶ月間ガーナに渡航しボランティア活動を行った際に、日本から支援されたトラックや道路を見る機会があり、日本の国としての援助について学びたいと思ったから。

★楽しかったこと

グローバルフェスタ開催に向けた共催者会議や広報に関する企業との打ち合わせ等に同席させて頂き、官庁のインターンであるにもかかわらず企業の雰囲気も感じることができた。

また普段の業務内でポスターやメルマガ作成などやらせてもらい、自分の作ったものがHPに載る・配信されるので作業時は強く責任を感じたが、その分やりがいも強かった。昼食時に色んな省員の方と関わられるような機会を設けて頂き、様々な経歴・思いを持った省員の方の話を聞けたことは将来を考える上で非常に有益であるし、人生において目標としたい人にも出会うことができた。

すべての経験が新鮮で、とても楽しい毎日だった。



岩田夏美（いわた なつみ）
上智大学経済学部経営学科3年
経済局国際経済課 インターン

★インターンを応募した理由

幼い頃から海外への興味が人一倍強く、海外と接点のある仕事に就きたいと思っていました。中でも、日本と諸外国との国際関係を担う外務省での仕事は学生のうちしか経験できないことだと思い、志望しました。また、専門性の高い優秀な方々の中でインターンシップをさせていただくことで多くの刺激を受け、国際経済に対する学びを深めたいと思ったので応募しました。

★インターン開始前とインターン終了後の外務省/省員の印象

インターンをするまでは、外務省は国の機関ゆえとてもお堅いイメージを持っていたのですが、実際は省員の方々は皆さんとてもフレンドリーであたたかかったです。在外大使館でのエピソードなど、普通なら聞くことのできないような非常に興味深いお話をたくさん伺うことができました。私の配属された課は、出向をされて外務省で働いている方も多く、様々なバックグラウンドを持った方々の中でその多様性と知識量に圧倒されながら、とても多くのことを学ぶことができました。

★おすすめのランチ

“LE PETIT TONNEAU（ル・プティ・トノー）”でのランチがおすすめです。外務省から少し歩きますが、パリ気分を味わえるととてもかわいくて素敵なレストランでした!!

環境省の高層階のレストランも景色がとても綺麗ですし、財務省の1階のレストランも風情があっておすすめです♪



水村太紀（みずむら ひろき）
東京大学公共政策大学院国際公共政策コース1年
アジア大洋州局大洋州課インターン

★どんなことをしたか？

インターン期間中の8月22日に公表されたフィジー新憲法の内容と特徴を、これまでの旧憲法や憲法草案と比較の上、分析する作業を行いました。また、大洋州課と業務上関係の深い国際機関である、太平洋諸島センター（PIC）や、在京ミクロネシア連邦大使館を訪問しました。必要な資料がなかなか見つからないなど難しいこともありましたが、省員の方々のサポートのもと作業をすすめることができました。

★インターンを応募した理由

将来の進路として国家公務員を志望しており、自分が将来省庁で働くイメージを具体的に掴みたいと考えて、今回のインターンに応募しました。

岩井美緒（いわい みお）
筑波大学 社会・国際学群 国際総合学類3年
軍縮不拡散・科学部 軍備管理軍縮課インターン

★どんなことをしたか？

8月初旬に広島・長崎の両市で行われた平和祈念式や「ユース非核特使」委嘱式に関する関連業務を主に行いました。外務大臣，軍科部長のご出張に係る書類の作成や担当事務官のアシスタントです。また，私の担当官の方が担当されているG8グローバル・パートナーシップという，大量破壊物質等の拡散を防ぐためのマルチ会合に関する資料作成等さまざまなことを経験させて頂きました。

★インターンを応募した理由

外務省の受験を考えている身として，実際の外務省という職場の雰囲気を感じ，省員の方々のお話をお伺いしてみたいと強く思ったからです。

そして，大学では国際法を専攻しているもののこれまでは自分の興味関心の深い国際人権や環境の分野ばかりに注力し，国際法の根源とも言える核兵器や武力紛争等の分野に関しては“知らず”嫌いでした。この意識を正そうと思い，インターンシップの希望先は軍備管理軍縮課にしました。

★インターン開始前とインターン終了後の外務省/省員の印象

インターン開始前は荘厳で静かな職場を想像していましたが，私がインターンをさせて頂いた軍備管理軍縮課は，雰囲気がとても明るく，笑い声に耐えない職場でした。皆さん重い案件を抱えているにも関わらず，常にポジティブな姿勢でお仕事に取り組まれている姿が印象的でした。



海老塚恵（えびづか めぐみ）
上智大学 文学部 新聞学科 3年
IT広報室インターン

★どんなことをしたか？

毎日の業務として、やわらかツイートの素材の提案を、また研究・調査課題として、在米の各主要国大使館と総領事館のHPがどのような発表や広報を行っているかについての調査、そして広報室が発信しているTwitterの効果測定を行っています。

★応募した理由

憧れではあったものの、全く次元の違う別世界であった外交官の仕事を、実際に省内に入って自分の目で見て、業務にかかわることができるという最高の機会であったため、応募しました。大学で社会調査を学んでいる私は、外務省がSNSをはじめ広報をどのように発信し、効果を活かしているかに興味をもっていたため、IT広報室を選びました。

★楽しかったこと

課室の首席や先輩方にお昼に連れて行っていただき、今までの外務省でのご経験をたくさんお話しいただきました。現場で日々活躍なさっている省員のみなさまのお話は、本当にリアルでエキサイティングでした。また、岸田外相の記者会見を見学させていただいた経験も代え難いものでした。新聞学科で学んでいる私は、記者が質問する様子と外相がそれに答える姿、どちらも非常に興味深く、実際にその場で空気を感じられたことは、忘れられない体験となりました。

佐原貴子（さはら たかこ）
慶應義塾大学法学部政治学科3年
軍備管理軍縮課インターン

★どんなことをしたか？

岸田外務大臣の「ひろしまラウンドテーブル」開会式スピーチの英訳、「核兵器使用の人的影響に関する共同ステートメント」の問題に対する在京大使館への説明ポイントの英訳、大臣の広島・長崎出張のロジスティック資料の作成、新課長・新首席のためのブリーフ資料作成(各国の核政策のまとめ)、「核兵器使用の人的影響に関する共同ステートメント」参加国に関する調査、国連総会軍縮決議案の決裁書作成等

★インターン中に知った用語

依頼された調査のお仕事を通して、NTI(Nuclear Treat Initiative)という研究機関や、CD(Conference on Disarmament)という軍縮会議等の存在を知りました。なにより、軍縮会議が公表するドキュメントや各国のステートメントが「一次資料」(これもインターン中に何度も出てきた言葉)として調査においてはとても重要な役割を果たすことを学び、リサーチスキルを高めるのに大変役立ちました。

★楽しかったこと

自分の手がけた英訳が、決裁書として課内、そして関係する他の課に回っていくとき、コメントや質問を受けて段々仕上がっていく課程を自分の目で見るのがとても感慨深かったです。また、核兵器の人的影響に関する共同ステートメントや各国の核政策についての調査に携わった時は、インターン生とはいえ、専門官になったつもりで精一杯調査し、調査結果が他の業務に少しでも役に立った時は大きな達成感を感じることができました。

宮本孝平（みやもと こうへい）
中央大学法学部3年
中東第一課インターン

★どんなことをしているの？

エジプト外相と各国外相の会談、電話会談の内容をまとめたり、エジプト情勢に関する資料のアップデートをしました。エジプト情勢が不安定なので、エジプトに関する仕事ばかりです。

★インターン開始前とインターン終了後の外務省/省員の印象

予想通り、みなさん忙しいそうでした。そして、コンビニの回転が早い！



菅谷麻那（すがや まな）
東京大学 経済学部 3年
経済局 国際経済課インターン

★どんなことをしたか？

世界経済に関する報道、市場動向をまとめて日報を作成したり、世界経済データ集の更新を行ったりしました。

また、課題としては米国の金融緩和縮小とそれによる新興国への影響を調査・分析し、発表しました。

★インターンを応募した理由

就職活動に際して国家公務員に興味があり、雰囲気などを知りたかったことと、国際経済に関する知識を身に付けたかったことから応募しました。

★インターン開始前とインターン終了後の外務省/省員の印象

外務省に対して堅い印象を持っていましたが、実際の省員の方々はみな和気藹々としていて親しみやすく、驚きました。ランチや飲み会などに誘っていただき、外務省での仕事内容にとどまらず様々なお話を聞いたので非常に有意義で楽しかったです。面倒を見てくださった省員の方々に感謝しています。